

使徒言行録 21章 37節～22章 5節 パウロは兵營の中に連れて行かれそうになったとき、「ひと言お話ししてもよいでしょうか」と千人隊長に言った。すると、千人隊長が尋ねた。「ギリシア語が話せるのか。それならお前は、最近反乱を起こし、四千人の暗殺者を引き連れて荒れ野へ行った、あのエジプト人ではないのか。」パウロは言った。「わたしは確かにユダヤ人です。キリキア州のれっきとした町、タルソスの市民です。どうか、この人たちに話をさせてください。」千人隊長が許可したので、パウロは階段の上に立ち、民衆を手で制した。すっかり静かになったとき、パウロはヘブライ語で話し始めた。

「兄弟であり父である皆さん、これから申し上げる弁明を聞いてください。」パウロがヘブライ語で話すのを聞いて、人々はますます静かになった。パウロは言った。「わたしは、キリキア州のタルソスで生まれたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました。わたしはこの道を迫害し、男女を問わず縛り上げて獄に投じ、殺すことさえしたのです。このことについては、大祭司も長老会全体も、わたしのために証言してくれます。実は、この人たちからダマスコにいる同志にあてた手紙までもらい、その地にいる者たちを縛り上げ、エルサレムへ連行して処罰するために出かけて行ったのです。」

パウロはユダヤ人からリンチを受け、殺されそうになった。この騒ぎの報告を受けて、ローマの千人隊長が駆けつけ、パウロを捕らえた。事の真相を突き止めようとしたが、騒ぎは収まらず、要領を得ないので、兵舎に連行し、取り調べることにした。その途中、パウロは、「ひと言お話ししてもよいでしょうか」と千人隊長に言った。彼は、「ギリシア語が話せるのか。それならお前は、最近反乱を起こし、四千人の暗殺者を引き連れて荒れ野へ行った、あのエジプト人ではないのか」と尋ねた。先ごろ、エジプト出身のユダヤ人が自らを預言者と称し、帰依者たちを集め、エルサレムに突入しようとしたが、総督フェリクスによって鎮圧された事件があった。パウロは、「わたしは確かにユダヤ人です。キリキア州のれっきとした町、タルソスの市民です」と名乗り、「どうか、この人たちに話をさせてください」と依頼した。千人隊長が許可したので、パウロは階段の上に立ち、群衆を手で制し、ヘブライ語（アラム語）で話し始めた。

まず「兄弟であり父である皆さん、これから申し上げる弁明を聞いてください」と、信頼を込めて呼びかけた。パウロがヘブライ語で話すのを聞いて、人々は静かになった。自分は、キリキア州のタルソスで生まれたユダヤ人で、エルサレムで育ち、律法学者ガマリエルの門下生で、律法について厳しい教育を受け、皆さんと同じように、熱心に神に仕えていた。だから、この道（キリスト教徒）を迫害し、男女を問わず縛り上げて獄に投じ、殺すことさえした。このことについては、大祭司も長老会全体も、証言してくれる。実は、神殿当局からダマスコにいる同志にあてた手紙までもらい、その地にいる者たちを縛り上げ、エルサレムへ連行して処罰するために出かけて行った。

パウロは自分の出自と経歴、そして、律法に対する熱心さがキリスト教徒を迫害していた過去について語っている。パウロはユダヤ人から憎しみと怒りを受けている騒ぎの最中にある。こんな時に、弁明などできるものであろうか。彼はどんな時と場であれ、主イエスの福音に立ち、生かされていることを語らずにはおられないのである。ただ、敬服する。